

第 17 回日本在宅医学会もりおか大会 一般・指定演題

(研究報告) 抄録用紙

演題名 (全角 80 字以内)	専門特化した在宅療養支援診療所についての検討
演者名	辻 典子 <sup>1)</sup> 廣瀬 貴久 <sup>1)</sup> 鈴木 裕介 <sup>1)</sup> 葛谷 雅文 <sup>2)</sup>
所属	1) 名古屋大学大学院医学系研究科地域包括ケアシステム学寄附講座 2) 名古屋大学大学院医学系研究科地域在宅医療学・老年科学講座

研究方法 (右から番号を選び NO. 欄に番号をご記入ください)	1. 症例報告      2. 症例シリーズ報告      3. コホート研究 4. 症例対照研究      5. 調査研究      6. 介入研究      7. 二次研究 8. 質的研究      9. その他研究	NO.
		5

背景と目的:我々は昨年度実施した日本在宅医学会および日本在宅医療学会の演者に対する調査により、専門特化した在宅療養支援診療所が増加しつつある傾向を把握するに至った。今回はそれらの診療所の実態をさらに明らかにすることを目的として調査を実施した。

方法:昨年同様、上記2学会の演者からリストアップした119名に施設のスタッフ構成、特徴、他施設との連携状況、等の設問を含むアンケートを郵送し、無記名での回答を回収した。同時に、在宅医療専門クリニックの運営実態に関する独自の予備調査も実施した。尚、今回の調査研究に関しては名古屋大学医学部生命倫理委員会の承認を得ている。

結果:回収率は47.9%、常勤医は約9割の施設で複数名(1施設平均4.4人)、スタッフは多職種で構成され、昨年度には記載のなかった職種(薬剤師・栄養士・ドライバー・ケアマネジャーなど)が新たに加わっていた。各施設における常勤医・MSW・理学療法士は増加傾向を認めた。在宅医療専門、在宅ホスピス、緩和ケア、小児医療などに特化した診療所は東京都に多く見られた。ほとんどの施設が他施設との連携は十分にとれているという回答であった。在宅医療を広めていく上での重要点は昨年と同様、人材育成、市民への啓蒙活動、地域連携、医療・介護の連携などが回答された。独自の予備調査では、実際に稼働している24時間365日診療体制の在宅医療専門クリニックは、全国に123施設あり、これらは東京都や神奈川県・愛知県などの都市部に集中していた。

考察:在宅療養支援診療所内の構成職種の多様化が今回の調査で明らかになった。また専門特化した診療所が主に都市部で増加傾向であることは、ニーズの多様化のみでなく患者分布範囲など地理的条件も背景にあると考えられる。